

第1回 石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ 議事要旨

日 時：平成26年2月24日（月）14:00～16:00

場 所：南幌町ふるさと物産館「ビューロー」3階会議室

出席者：矢部座長、浅野氏、折谷氏、川村氏、小林氏、鈴木氏、永田氏、錦織氏、濱田氏、伊藤氏、矢部氏、松田氏、岡部氏、佐々木氏（以上14名）

（矢部座長）

当別地区の自然再生について、整備前に裸地だったものが、どうしてこのような草原に変わったのかを教えてください。

（事務局 河川計画課石狩川総合水管理調査官）

排泥跡地を掘削していくことによって、水が溜まり、植生が生えてくるような状態にしています。

（永田氏）

自然再生にあたり、避難して増殖させているミズゴケ属というのは総称で言っているのか、もしくはミズゴケ属の中でもこういうものと言っているのかを教えてください。

（矢部座長）

ある程度水に近い所で育つイボミズゴケなどが優占する群落の中に、ところどころに水の嫌いなミズゴケ種が入るような、たくさんの種類のミズゴケ属の種が共存したような湿原の再生を目指したいと思います。

（永田氏）

遮水シートについて、斜めに入れるような工法があるのかということと、対象とする場所では難透水層までどのくらいの距離があるのかということ、もし分かれば教えてください。

（事務局 河川計画課石狩川総合水管理調査官）

遮水シートの素材や工法はどれが一番良いのか、詳細を今まさに検討しているところです。

（永田氏）

私が所属する北海道農業研究センターにも湿原があり、湿原の再生をするために総延長でかなりの距離となる遮水シートを入れたのですが、劇的な効果があったかどうかについては疑問があります。どの深さまで入れるかということや、素材を検討されるのは非常に重要だと思います。

（矢部座長）

難透水層までどのくらいの距離があるかなど、もう少し詳しい情報があれば教えてください。

ださい。

(事務局 江別河川事務所調査課長)

地下水位が約 2.5m くらいの深さにありますので、1:1.5 程度の勾配でペントナイトシートを敷設するような施工イメージを考えています。

(伊藤氏)

幌向地区の目標は、湿原の面積について、明確な目標は無いのですか。

(岡部氏)

湿地 7ha が、全体の面積です。何年後までに、どこに何を分布させるかなどは、ワークショップのご意見も踏まえながら、検討していきたいと思います。面積に加えて、ほろむい七草やミズゴケ属などももう少し細かな目標について、次回以降またご議論させて頂ければと思います。

(矢部座長)

順応的管理としてモニタリングを続けながら、それぞれの時点で、管理方法を考えていくことになると思います。種等が自然に飛んできて復元する受動的再生は難しいので、外から導入してくるしか方法は無いだろうと思います。美唄の湿原のような場所の希少種を導入して、貯金のように、幌向地区に残っていくという期待を込めて進めていきたいと思います。

(矢部氏)

順応的管理が重要であると思います。地域の支援、地域振興に繋げていく視点が、自然再生の目標設定に重要ではないかと考えています。今回、この実施計画書には、地域がどのように維持管理するか、どのように地域振興と結びつけていくかなどについても検討して頂きたいと思います。

(松田氏)

これから色々な河川の取り組みを進めていく上でも、何か目標となるものが見えていくとイメージも湧きやすいと思います。そこで、今回目指すようなボッグという高層湿原を見ることが出来る所は、既にあるのですか。

(矢部座長)

そのようなものが一番美しい状態で残っているのは、美唄湿原です。また、面積が小さくて帯状ですが、そのような雰囲気を残しているのが月ヶ湖です。月ヶ湖は石狩当別にある湿原で、ほろむい七草の一部が残っており、サロベツ湿原の核心部のようなイメージです。一番近くで見られるのは雨竜沼湿原です。

(鈴木氏)

先程説明された遮水シートは、美唄湿原を周囲を一周するように整備したのですか。

(永田氏)

周囲を4分の3囲みました。長方形になっている手前の短辺を残し、奥の排水路に流れないように4分の3程度実施しています。深さは1.2m程度だったと聞いています。20年程度経過しています。

(矢部座長)

上手くいっていないと仰ってましたが、何か理由があるのですか。

(永田氏)

粘土が出てくるのが深さ4.5m程度ですが、遮水シートを埋めているのが深さ1.2mなので、下で行き来してる水があるのだと思います。また、特に薄くも厚くも無い普通のビニールシートなので、埋めるときに破れていることも考えられます。以前検討したときには、矢板を入れてしまったほうが良いという意見もあったようです。対策については、実施前に十分考える事項だと思います。

(濱田氏)

湿原の周りに排水溝が7m程度の深さで掘られており、遮水しようとしても、どこかで繋がっていると、水が漏れてしまうのではないですか。

(永田氏)

シートの境界部分を見ても、外側と中側でそれほど変わらない状況なので、あまり効いていないのではないかと思います。

(永田氏)

私の今の専門は、地球温暖化に関する、農地から出る温室効果ガス等の研究です。IPCCが湿原から出る温室効果ガスについて、数値を精緻化しようとしています。例えば、ヨーロッパやカナダ等では泥炭をかなり採掘しており、それによって植生を剥いでいるので、CO₂の分解や他のガスが発生することがあります。IPCCのメンバーとして湛水させて泥炭を保護した場合の温室効果ガスの発生状況に関する研究の事例も見ました。日本ではこのようなことは全く検討されていません。今回、植生を回復するということは、植生に炭素を固定させるということでもありますので、地球環境的な見地からも、非常に重要なことだと考えています。海外に発信できるような内容になると期待しています。

事業実施の前後の変化を評価できるこの事業は非常に重要だと思っています。

(鈴木氏)

美唄湿原など非常に価値があるということはもちろんですが、自然再生を進めている間に消えていく可能性があるわけです。幌向地区でモデルとしていますが、今ある植物資源を全体としてどのように扱っていくか、一緒に考えていかなければならない問題ではないかと思います。

その中で美唄湿原の北海道の管理エリアは今どういう風に扱われているのか、教えて

頂ければと思います。

(錦織氏)

調査されて報告書がまとめておりましたが、その後は何も聞かなくなりました。

(矢部座長)

例えばここにサロベツ湿原の色々な植物を植え込んでも、遺伝子が残ったということにはならないのかもしれませんが。今後議論していかなければならないと思います。

(錦織氏)

試験に取り組まれています、得られた知見や見通しのようなものはあるのでしょうか。

(矢部座長)

この試験地全体はどんどん乾燥による収縮を起こしていますが、その中を掘ると、まだ生きた泥炭が出てきます。そこに植物を植えて、それがどういう風に生育してくるかというのを見ようとしています。高さが 40cm とか 50cm になるようなスゲとかイヌノハナヒゲというような植物で試験をしていますが、湿原再生にはこれらをまず導入して、半日陰を作っている程度乾燥を抑制した上で、ミズゴケ属を導入するとそれが定着しやすくなるのではないかと期待しています。

(錦織氏)

湿地再生と、経済的な視点とをどのような関係として考えられているのかを教えてください。

(事務局 河川計画課石狩川総合水管理調査官)

単に植物を生やすということだけではなく、経済性にも結びつくようなものを色々紹介し、関係する主体個別には色々な目的も含めて関心を持って参画して、取り組んで頂ければと思います。

(濱田氏)

少し楽しむ部分や多くの方が関心を持つような部分を入れていく必要があると思います。

辻井先生から、自然再生はとても時間が長くかかるから、環境のワイズユースという面では、再生と栽培を分ける考え方もあるアドバイスを頂きました。私達としては、みんなでジャムを作って楽しもうということは、自分たちの活動の動機付けのためにもなっています。ユニークな地域ならではの新たなテーマなので、NPO の活動財源としてそれを活用できないかということを考えております。また、ほろむい七草の絵葉書を作成してそれを販売しながら、再生・保全活動への応援をお願いしています。

(浅野氏)

地域振興については、この場所に湿原があって、希少な植物があることを町の方に浸透させていかなければ、地域と一体になって進めるということは難しいだろうと考ます。かつて南幌町にある湿生植物群落を教育委員会の保護区としていましたが、今は当初のものは壊滅状態になっており、今回の取り組みは非常に貴重な取り組みであると思います。飲食物への加工や観賞用としての利活用も含めて議論していければ良いと思います。

(矢部座長)

環境保全は環境教育、社会教育、経済、文化、社会、人の生活を取り込んでいかなければ達成できないという状況であり、今後の検討が必要なことだと思います。

(濱田氏)

お子さんが目を向けてくれると、両親やおじいちゃんもおばあちゃんにも関心を持って頂く、いいきっかけになるのではないかと考えております。錦織さんと鈴木さんのお力を借りながら、ほろむい七草を町民の方々々に育てていただく、里親制度を準備中です。ほろむい七草の苗はまだ難しい状況ですが、ミズゴケ属に関しては、卓上で栽培できるような状態が実現しています。

(濱田氏)

かつて湿原の状態や、水害の体験があったことなどについて、地域の歴史に関して私達が勉強していくようなことがあれば、ぜひこの機会にお願いできればと思います。

(小林氏)

南幌町は水害地帯で、それを解決するために新夕張川を掘削し、そのお陰でかなり水害は少なくなりました。かつては、旧夕張川が水害のたびに堤防決壊し、その補修をするために土砂を採る為に掘った後の沼地が多くあり、色々な野鳥が来るヨシ原や、大きな鶴が舞う低地帯の自然の沼もありましたが、開拓されてしまって今は畑になっています。子供の頃に野イチゴをよく食べた記憶がありますが、再生して育てた植物を、除草剤の影響から守るようなことも考えなければならないと思います。

(伊藤氏)

湿地の環境の再生のためにあまりにも地下水位を上げてしまうと、堤防の基礎部分の含水比が高くなることに留意しておく必要があると思います。

(岡部氏)

今までも堤防の安全の検討の中で湿潤面を考慮した検討をしていますが、場合によっては再度の確認も検討したいと思います。

(矢部座長)

来た人にどのように見せるか、トレイルについての議論もいずれ発生してくると思います。

(岡部氏)

見せるということもありますし、モニタリングしなければなりません。具体的にどこにどのような通路を作るかということも、皆さんにご相談しながらやっていきたいと思えます。

(濱田氏)

私達はフットパスをやっておりますので、自然再生の地区をコースに取り込めば面白いと思えます。

(松田氏)

視点場が非常に居心地が良いと、そこに長い時間居ることができ、見ている人がいれば、それをまた見た地域の人達の認識も高まっていくのではないかと思えます。

提案なのですが、定点観測的に、絵になってわかりやすい所を何箇所か場所を決めて、できればカメラのプロにきちんと撮って頂いて、ホームページなどを見せていきたいと思えます。

また、具体的なスケジュールを教えてくださいと思えます。

(岡部氏)

実施計画書を年度内に作って頂き、あくまで予定ですが、早ければ平成 27 年度の事業としての実施を目指して作業を進めたいと思えます。対象地が劣化していくので、早くしなければならぬと思えます。

以上